

足立区議会議長 鹿浜 昭 様

足立区議会議員 15番 山中 ちえ子 印

文 書 質 問 書

会議規則第60条の2第2項の規定に基づき、次のとおり文書質問書を提出します。

記

テ ー マ 及 び 質 問 項 目

1. 退職した後、コロナ禍となり暮らしの為に再就労を強く望んでいるが就労困難になっている障害（手帳を持たない知的障害、精神疾患も含む）を抱える若者の就労応援について

①就労移行支援事業の費用負担

前年度の収入をもとに就労移行支援事業の利用料が決まるため、退職後厳しい生活の中、就労が決まらない期間が長引くと高い利用料が大きな痛手となる。

就労移行支援事業を受けながら就労に向かって頑張る場合に、精神的なストレスが周りの家族にも波及し不和も招き、より二次障害を受けやすくなってしまい「引きこもり」の要因ともなり深刻だ。

私の所にも、この1年で同様の相談が多く寄せられるが、ある若者は一昨年12月に職場から受けるパワハラに悩み障害援護ケースワーカーに相談すると就労移行支援事業を紹介されたという。退職しないと「就労移行支援事業」は受ける事ができないからとの説明を受け、これを理由に退職を決意することとなったが、今思うと、コロナ禍となり就労移行支援を受けても転職がなかなかできない実態で、就労移行支援事業の高額な負担と生活苦の狭間で「あのとき、退職などしなければよかった」と後悔している実態だ。ちなみに、この若者は200万円程の前年度収入があり、月額9300円の負担を、昨年の収入ゼロの確定申告が反映される今年6月まで続ける予定となっている。アルバイトも認められない上に、せっかく就労意欲があっても、就労移行支援事業の高額な自己負担からくる焦りと不安を持つに至るようなことになってはいけないと考える。また家族不和によって本人の居場所がなくなるような事が無いよう就労移行支援事業の負担軽減が必要だ。

「安心して就労に向かえるための応援をする」立場に立ち、区独自で就労移行支援事業の重い負担（月額9300円）は、負担上限を安価に決めて、負担軽減を行うべきではないか。

② 家族へのケア重視で家族が仲良く就労に向かうことが出来るように。

経済的に厳しい状態となっていく本人に「生活保護になってしまったらみっともない」本人は単身での暮らしを望んでいるのに同居を強いる、など、家族からの不必要な働き

15番 山中ちえ子

テーマ及び質問項目

かけによって二次障害（知的障害は二次障害を受けやすい）を受け、本人がなかなか立ち直れなくなることも起きている。

家族が持つ不安を解消し本人との間で不和に陥らないよう区の支援が必要だ。

このような退職後の就労支援を受けている時期の障害を持つ若者への援助の際には家族を含めて横ぐしで連携しケアすることを重視するべきだ。

区は、家族への「生活保護」についての正しい理解を促し不安を解消する役割を發揮するべきだ。本人に余計な圧力をかけることとならぬよう、家族をケアすると同時に「一緒に見守りましょう。安心してください」「生活保護を受けながらの就労活動も選択肢の一つです」とのメッセージを重視して家族を含めて発信、各関係部署と連携を強めるべきではないか。

2、花畑に文教大学がやってくる今、二つの中学校を中心に区の文化、学び合いを重視したまちづくりで、花畑の子供たちを元気に育てていこう。

① 河川環境保護を含めた環境保護の社会学習、観光スポット社会学習を位置づけ、文教大学と環境保護団体、および住民、花畑北中学校、花畑中学校の連携を応援。

ア) 毛長川と毛長公園が一体となった整備が文教大学のある部分だけで進められているが、3川合流地点、大鷲神社の場所まで同じように公園と川が一体となった整備を行い、河川の環境保護を含めた環境保護の取り組みが行いやすい整備、大鷲神社と一体となった川、公園整備とするべきではないか。

イ) 大鷲神社は緑の多いパワースポットで若い人たちからも密かな名所とブームにもなっているが区内外に広く周知が広がっていない。

夏はヒートアイランドを低減するスポットとなり、感染リスクが高まる都心での遊びよりコロナ禍でも健康的、快適に楽しみやすい場所だ。この地域を重視して川、緑の環境の学びや取り組みもできる学生の憩いの場としても親しんでもらえるようこの周辺の整備が必要ではないか。

ウ) 「毛長川に親しむ川環境の保護を観光に」に大学、地域、花畑北中学校、花畑中学校が連携し取り組む。

4月から花畑にくる文教大学の学部は観光にかかわる学習分野がある。この地域の観光スポットをつくっていく取り組みが住民や学生に刺激となり、環境を守る取り組みとともに学ぶ取り組みにもするため学生たちが社会の役に立つ経験をつくることにもなる。

今、この地域で環境保護活動や学習を中心とした観光学習の取り組みをしていく事が花畑北中学校、花畑中学校を存続・発展させる力になる。

花畑北中学校、花畑中学校を将来にわたって発展させ地域のコミュニティの場にもしていき、この地域を区の環境保護の取り組みと観光スポットとしての拠点としていく。そのための一つとして、文教大学との連携校として花畑北中学校、花畑中学校を位置づ

けていくべきではないか。

②花畑中学校と花畑北中学校の学校統廃合は中止へ

例えば、花畑北中学校は、今1年生35人(1クラス)、二年生46人(2クラス)、3年生は43人(2クラス)の生徒が通っている。

花畑北中学校は最北部に位置しているため、少しずつ子どもたちが学校選択制のもと離れていき、これが悪循環を招き、部活ができなくなる等の困難が生じ、さらに離れていく傾向にある。

しかし、校長先生をはじめ先生方は子どもたちの名前を全て知っていて仲良しで子どもたちと話し合っ様々なことを生徒が主体的に決めていくことを重視できる素晴らしい学校だ。

卒業生へのメッセージを届けた際に、「『古い学校ですが、色んな場所を生徒と共に工夫して生徒の作品を展示したり生徒自身の考えを尊重した取り組みを日常で行ない誇りをもてる学校づくりをしている。こんなに素晴らしい学校だから統廃合なんてできないね』と言われるように学力向上にも力を入れ、頑張っている。」先生が笑顔でこう話してくれました。

この春の新入学生の生徒数によっては先生がさらに減らされる、と聞いて「学校選択制はやめてほしい。先生方の数を減らさないでほしい。部活を中止させないでほしい」とお母さんたちからの悲鳴です。

今後、国も少人数学級を進めていく中、密を避ける学校運営こそが必要だ。小学校、中学校の学校統廃合は中止し「地域の子供は地域の学校で」との方針に中学校も転換していくべきではないか。